

日本宗教学会 第70回学術大会

2011年9月2日～4日



関西学院大学（西宮上ヶ原キャンパス）

【2日会場】（B号館 101教室） 【3・4日会場】G号館内

「お知らせ」と「お願い」

1. 受付手続きの際、必ず名札をお受け取り下さい。名札は、常に身に付け、お帰りの際にはご返却下さい。
2. 受付には、学会本部が出張しております。学会費未納の方はお納め下さい。
3. 発表題目、パネル構成員の変更は一切認められません。プログラムと同一にして下さい。
4. 発表者は、発表の2番前に、発表会場の「発表者待機席」においで下さい。
 - ・申し込み時に、パワーポイント、OHP、スライドの使用を申請された方へ
 - 個人発表は発表の2人前、パネル発表は開始20分前までに、会場係にお申し出下さい。
5. 発表時に配布するレジュメ・資料は、余裕をもってご用意の上、会場係にお渡し下さい。
6. 発表時間は以下のように構成されます。時間厳守をお願いします。
 - ・個人発表 発表15分、質問5分、計20分（初鈴13分、二鈴15分、三鈴20分）
 - ・パネル発表 「発表者数×5分」をフロアからの質問時間として確保下さい。
それ以外の時間配分は、パネル運営者にお任せします。
7. 発表会場間の移動、及び、プロジェクターなど機器の設置に時間が必要なことを加味して、個人発表終了後に5分間の休憩時間を設けています。この5分間を議論の延長などに使うことのないようお願いいたします。
8. 万が一、発表の取り消しがあった場合でも、その後の発表を詰めて行うことなく、予定時間通りに発表して頂きます。
9. 個人発表のレジュメ（表紙・本文）の紙原稿・電子データについて
22頁「レジュメ作成と提出の注意」に従って作成した紙原稿を、9月4日各部会終了時まで、部会責任者に提出して下さい。電子データは、22頁「電子データの提出方法」に従って、ご提出下さい。
10. パネル発表のレジュメ（表紙・本文）の紙原稿・電子データについて
22頁「レジュメの作成と提出の注意」に従って作成した紙原稿を、代表者がとりまとめて、9月4日各部会終了時まで、部会責任者に提出して下さい。
電子データも、代表者が全員分をとりまとめて、9月9日までに、メールで、学会事務局に送信して下さい。
代表者は、「パネルの主旨とまとめ」（パソコン原稿：1行40字×40行）と「パネルの欧文タイトル」を、9月19日までに、学会事務局にご送信下さい。
11. 日本語が母語でない方へ レジュメは、必ず、日本語上の精査を受けた上で、ご提出下さい。
12. 所定の場所以外での喫煙は、ご遠慮下さい。

受付	2・3・4日	G号館2F通路
会員休憩室	2・3日	102教室（G号館1F）
クローク	2・3・4日	207教室（G号館2F）
学会本部		203教室（G号館2F）
大会実行委員会本部		204教室（G号館2F）

大会日程

9月2日(金)

学会賞選考委員会	G-113 教室	12:00~13:00
情報化委員会	G-116 教室	13:00~14:30
庶務委員会	G-118 教室	13:30~14:30
国際委員会	G-119 教室	13:30~14:30
開会式	B-101 教室	14:30~14:40
公開シンポジウム	B-101 教室	14:40~17:40
テーマ「宗教の創りだす絆—信仰による交わりの意義と可能性」		
パネリスト	中道基夫(関西学院大学) 渡辺順一(金光教羽曳野教会) 三木 英(大阪国際大学) 小杉 泰(京都大学)	
モデレーター(司会)	對馬路人(関西学院大学)	
理事会	関西学院会館「翼の間」	18:00~20:30

9月3日(土)

研究発表(個人、パネル)	G号館内各会場	9:00~12:40
評議員会	G-101 教室	12:40~14:00
研究発表(個人、パネル)	G号館内各会場	14:00~16:00
会員総会	G-101 教室	16:20~17:40
懇親会	関西学院会館レセプションホール	18:00~20:00

9月4日(日)

研究発表(個人)	G号館内各会場	9:00~12:15
編集委員会	G-118 教室	12:15~13:00
プログラム委員会	G-119 教室	12:15~13:00
研究発表(個人、パネル)	G号館内各会場	13:15~16:10

開催校からのお知らせ

日本宗教学会会員の皆さま、本年度の学術大会へご参加いただくにあたり、開催校としてお知らせしておきたいことがございます。ぜひご一読くださいますようお願い申し上げます。

- 1) 今回のプログラムでは試みとして各部会に部会名を付けております。これは研究発表の内容をもとに分類したものではありません。大会参加者が研究発表を聴くためのひとつの道標として実行委員会にて仮に付けたものです。参考にしていただければ幸いです。
- 2) 会場へのアクセスについては別紙の通りですが、阪急「甲東園」駅からはバスの利用をお勧めいたします（片道210円）。徒歩の場合は、夏場に坂道を登っていただくこととなります。また「仁川」駅からの徒歩時間は、道に馴れた者の場合ですので、ご注意ください。
- 3) 主な会場となるG号館は、ゆるやかな傾斜地に建てられているため、1階も2階もともに地続きとなっています。大会受付は1階のように感じられますが、建物としては2階になります。くれぐれもご注意ください。
- 4) 昼食は、私どもの学術大会のために生協の「BIG PAPA」が営業してくれます。メニューは限定されますが、工夫したものを用意くださるようです。なお「BIG PAPA」の上階には「三田屋」（営業時間11時～14時半）もございます。また、関西学院会館レストラン「ポプラ」も営業しております。多数のご利用をお待ちいたします。また少し道を下っていただくと「ローソン」がございます。
- 5) コピー機は生協に2台ございますが、限られておりますので、配布資料などは予め自分でご用意ください。
- 6) クロークでは、お荷物をお預かりする用意はございますが、貴重品・衣服については預かりかねますので、ご容赦ください。
- 7) 関西学院大学は、プロテスタントのメソジストの流れを汲みます。そこで9月4日（日）8時20分から8時50分までより、下記の要領でメソジストの祖ジョン・ウェスレーの定めた礼拝を、神学部長の司式のもとランバス記念礼拝堂にて行います。関心のおありの方はご参加ください。

ウェスレーの契約礼拝

ジョン・ウェスレーは神との契約を更新することを強調していたが、「契約礼拝」という形では、1755年8月11日に行ったのが最初である。ウェスレーは、*Directions for Renewing Our Covenant with God*と題したパンフレット（1780年）に契約更新のための祈りを記し、これが契約礼拝の式文として用いられた。その後、信仰理解や言葉の変化に伴って、様々な修正が加えられていった。

最近では、George B. Robsonが作成した式文（1922年）が、イギリス、アメリカのメソジスト教会の礼拝書に載せられ、広く用いられていた。The United Methodist Book of Worship（1992年）は、1780年のウェスレーによる式文からの文言を大幅に回復した。この礼拝で用いる式文も、これに基づいている。

契約礼拝は、メソジストの伝統では現在も広く行われており、アメリカでは除夜（Watch Night）に、イギリスでは新年最初の日曜日に行われることが多い。いずれの場合も、「契約の食事」として聖餐が祝われるのが通常である。

公開シンポジウム

「宗教の創りだす絆—信仰による交わりの意義と可能性」

宗教は直接的には神仏といった宗教的実在への人のかかわりを基盤とする人間の営みであるが、デュルケームの指摘を待つまでもなく、それは同時に共通の価値観やそれに基づく同胞愛の倫理に根差した強い人と人の絆を生み出してきた。しかし近年、教団組織の拘束を嫌い個人による自由な霊性の探求を志向する傾向、すなわち宗教意識や行動の個人化や私化の傾向がしばしば指摘されている。また一方で「カルト問題」では、信仰集団において生じた内閉的な、あるいは絶対帰依的な関係性がもたらす危うさが厳しく問われた。果たして宗教は人と人をつなぐ絆を失いつつあるのだろうか。また、信仰の創りだす絆は、現代においては自立した人々の開かれた関係性とはなじまないものなのであるだろうか。

われわれを取り巻く社会の中では、「無縁社会」という言葉に象徴されるように、血縁や地縁など在来の共同体的な社会的絆の衰弱や、人々の社会的な孤立化が憂慮される状況が進行している。そして市場原理による効率性の追求が強調され、協同より競争、共助より自助を重視する社会環境もますます拡がりつつある。またグローバル化の進展は国際的な人流を著しく活発化させ、慣れ親しんだ文化・宗教的環境からの人々の切り離し、移動先での文化・宗教的なマイノリティー化や周囲の社会とのコンフリクトなど様々な問題を生起させている。

こうした状況の進行へのカウンターバランスとして、いまや社会的絆や共助の回復というテーマが社会的な課題として各方面で強く意識されるようになってきている。こうした時代の課題への対応に際し、果たして宗教の創りだす絆はどのような意味や可能性を有するのだろうか。関西学院はかつてキリスト教社会運動家の賀川豊彦が協同組合運動を創始した神戸に生まれたキリスト教主義の大学である。また近くは阪神淡路大震災の被災地として共助の精神の重要性を再確認した経験を持った。今、東日本大震災という未曾有の災害に直面する中で、改めて宗教信仰の創りだす絆の意義や問題点、あるいは宗教信仰の違いを超えて人々をつなぐ可能性や課題について問い直してみたい。

Indigenization, InculturationからInterculturationへ

中道 基夫（関西学院大学）

信徒間の連帯や共同体所属意識は、同じ信仰を持ち、また同じ儀礼を持つことによって形成され、強化されていく。しかし、他の宗教との交わりや連帯は、何か一つの具体的な共通の場を持たなければ、その形成は難しい。さらに、宣教的宗教であるキリスト教において、宣教をどのように定義し、その中で他宗教をどのように理解し、それを具体的にどのような方策として実施するかによって、他宗教との関係は大きく変化してくる。

キリスト教の宣教学、また宗教の神学においてこの問題が取り扱われてきており、その理解は時代とともに変化してきている。宣教学のキーワードに注目するならば、次の 4 つの段階に分類されるであろう。このいずれもキリスト教の側から他宗教の価値を評価してきたキリスト教宣教学における議論の変遷を批判的に検証し、宗教を越えた協力を可能にする神学の可能性について考察する。

1. 特殊主義 この名前の他に救いはない。tabula rasa method
2. 包括主義 救いの恵みは教会の外にもある。Indigenization
3. 多元主義 多様に具現化される神の存在 Inculturation
4. Inculturation から Interculturationへ

近年のキリスト教の宣教理解として注目されている Interculturation は、キリスト教において宗教の違いを超えて協力し合う可能性を模索するものである。ただし Interculturation の議論の中で言われていることは、それぞれの宗教が融和されていくことではなく、むしろ自分自身の独自の輪郭をはっきりとさせ、どの部分で他の宗教と結びついていくことができる領域を積極的に開いていくことである。

ただし、日本では欧米の宣教学の議論を待つまでもなく、生活の現場の中ですでに Interculturation が行われている。特に、東日本大震災の被災者支援をめぐって宗教者として何ができるのかという模索の中で生まれてきた共同の業が、宗教を越えた協力の一つの姿として、世界に向けて発信することができるのではないだろうか。また、その実際の取り組みから Interculturation の問題にもアプローチしたい。

繋がり喪失の時代における宗教運動の課題

—「宗教」を人々の「痛み」の側にどう開いていくのか—

渡辺 順一（金光教羽曳野教会）

近年の日本社会の、人と人との繋がり希薄化は、地域社会に伏在している多様な問題群の可視化と、それらへの社会的支援を困難にしている。そして、その人間の孤立化、社会全体の流動化の状況は、経済格差・貧困拡大とも連動して、職と住居を剥奪された若年層の「ホームレス」化や、中高年層の「過労死」「自死」の増加の要因ともなっている。

それでは、このような様々な共同体が揺らぐ「繋がり喪失の時代」のなかで、「宗教」（宗教者、宗教施設、宗教文化）が果たし得る役割とは何であろうか。「神道（神社）」や「仏教（寺院）」などの「伝統宗教」もそうであるが、とりわけ幕末維新期から現代に至る間、日本近代の歩みと共に教団形成をおこなってきた「新宗教」諸教団は、近代化の出発時点で翻訳言語として発明された「宗教」という概念枠組みを、自らの共同体を国民国家の構成物に編制していく上での当為として受け入れ、「近代（宗教）になる」という大きな物語のなかで自己組織化を果たしてきた。このことは、一面では、こんにち様々な共同体が経験している揺らぎや組織疲弊・閉塞化の状況を「宗教」もまた共有せざるを得ない一つの理由となっている。しかし他面では、その「近代（宗教）になる」ことへの主体的努力の歩みそれ自体が、日本の諸教団が容易に「宗教」になり得ないでいたことの証しでもある。すなわち、諸教団の宗教伝統（儀礼、「救い」の営み、信心生活の習慣）の内側には、発生段階での経験が、近代の共同体枠組みを脱していく集合記憶の装置として埋め込まれているように思える。そして、現代を生きる宗教者達の、同時代の人々の「苦」や「痛み」との繋がりを形成しようとする様々な試みは、「宗教」の側からの一方的な「社会貢献」に止まらず、「痛み」の側から「宗教」の公共性や聖性を問い直す、宗教イノベーションの実践的契機ともなっている。

報告では、第一に、金光教祖と発生段階での金光教団を事例に取り上げ、維新期の社会編制過程で惹起した、「難渋者」との繋がりをめぐる地域社会と初期教団との軋轢の問題や、近代的「職業」・「乞食」観の成立との関わりでの「宗教」観の成立の問題を論じる。第二に、現代の多様化した社会的排除の状況や、「新しい公共」の議論を視野に入れながら、こんにちの宗教者達の様々な活動を紹介し、そこから改めて宗教運動の課題を問う。

宗教的ニューカマーと地域社会

——外来宗教はホスト社会といかなる関係を構築するのか——

三木 英（大阪国際大学）

表題中の「宗教的ニューカマー」は二重の含意を持つ。1980年頃より日本に増加してきた移民たちのうちで熱心な宗教生活を送る者たちを指し、また彼ら移民とともに国内にもたらされた、日本人の知るところの少ない外来の宗教を指示している。この宗教的ニューカマーをここで取り上げるのは、それが国内において増加し、活発な活動を展開しているからに他ならない。

周知の通り、近年の不況および東日本大震災の影響によって離日する者が続出しているとはいえ、2010年末で国内に暮らす外国人登録者は200万人を超えている。その彼らすべてが宗教的であるというのではないが、確実にその一部は己が宗教を大切なものとして一ヶ所に集まり、熱心な祈りを捧げているのである。その祈りの場は、ニューカマーたちの生活する地域にある建物の一室に、あるいは独立建造物に確保されている。いずれであれ、地域に暮らす日本人住民からすれば、馴染みのない宗教の施設がいつの間にか設けられていた、ということになる。そして集会の日ともなれば続々と人が建物の中に吸い込まれてゆく光景を目にして、奇異に感じる住民もいよう。

ニューカマーの多くは日本に定住して仕事に勤しむ人たちである。したがって宗教的ニューカマーの姿は徐々に、日本人には見慣れたものになってゆく。だからこそ、現時点での宗教的ニューカマーの実態を正確に把握しておくことは、必要なことである。

約23万人を数える滞日ブラジル人のなかから支持者を集める福音主義的キリスト教、そしていま全国にモスクを開堂しつつあるイスラームが、本報告における主なる題材となる。外来宗教といえば仏教・儒教・道教そしてキリスト教であるが、現在の外来宗教は日本社会にどう影響を及ぼすのだろうか。ニューカマーの間にはどのような交わりが形成されているか、そして彼らと日本人が今後いかに交わってゆくかを考察することに意義はあるう。

現代宗教としてのイスラーム

——世界的なウンマとモスクを中心とする地域コミュニティ

小杉 泰（京都大学）

イスラームは現代においてもっとも急速に拡大している世界宗教と言われているが、単線的に拡大が続いてきたわけではなく、現代の宗教思想や倫理としての有効性を確立するための苦闘が19世紀後半から続けられた。西洋近代との邂逅によって、伝統的なイスラームに対して大きな疑問符が付けられ、近代／現代においても有効な宗教として生き延びるための模索がさまざまな形でおこなわれたのである。

イスラーム復興、すなわち現代においてイスラーム的な価値観や倫理の再生をめざす思潮や運動は、19世紀末からイスラーム世界の各地に広まり始め、実際にそれが顕在化したのは1970年代以降のことであった。それまで非常に影響力の強かった近代化や世俗主義、あるいはナショナリズムや社会主義が限界性を露呈したためもあり、イスラームが現代宗教として再び活力を示すようになった。

イスラームの特徴は、その教えを単に精神的な倫理としてではなく、具体的な行為規定を伴うシャリーア（天啓の法）として、信徒の日常生活の規範たらしめるところにある。それは世界的なウンマ（単一のイスラーム共同体）の法とされ、国家とは関わりなく、超域的に存在するものと考えられる。実際には、イスラーム世界の各国が近代的な国民国家となり政教分離を導入する中で、シャリーアは制定法から排除されることが多かった。しかし実際の社会においては、ムスリム（イスラーム教徒）の日常生活に関わる信仰行為、結婚・離婚や家族関係、割礼や葬祭などの儀礼において根強く残り、それがイスラーム復興と共に、再強化されるようになってきた。

全体的に見ると、イスラームの場合には、信仰を個人の問題としてとらえる傾向が薄く、同胞原理または共同体的な実践が信仰の発露となることが一般的である。その中心となるのはモスク（礼拝所、アラビア語で「 Masjid」）で、宗教回帰が生じると最初にモスク建設運動が起き、モスクが建設されると貧困層救済のために相互扶助や医療活動がおこなわれる。イスラーム圏でも、ムスリム移民の多い欧米諸国などでも、イスラーム復興には必ず、（1）聖典（クルアーン、いわゆるコーラン）教育、（2）モスク建設と礼拝の奨励、（3）相互扶助などの福祉活動、（4）巡礼の増加、（5）イスラーム銀行の設立、等が共通の現象として観察される。

本報告では、中東アラブ諸国の事例、欧米についてはイギリスの事例を中心に論じる。また日本についても、イギリスとの対比を通じて触れたい。

第1部会 宗教・災害・絆

G-201 教室

3日(土)

【午前】

- | | |
|---|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 「無縁社会」の宗教 | 宮本要太郎 (関西大) |
| 2. 9:25- 9:45 アメリカ黒人のオリシャ崇拝運動にみる縁の形成とジェンダー | 小池 郁子 (京大) |
| 3. 9:50-10:10 東西霊性交流におけるヨーロッパ側の受け止め方—その一例— | 峯岸 正典 |
| 4. 10:15-10:35 日本における宗教間対話の現状 | 武藤 亮飛 (筑波大) |
| 5. 10:40-11:00 異邦人入会の二類型—キリスト教共同体成立の理解に向けて— | 市川 裕 (東大) |
| 6. 11:05-11:25 大災害と複数宗教性 | 濱田 陽 (帝京大) |
| 7. 11:30-11:50 災害と救済論理 | 米井 輝圭 (昭和女子大) |

【午後】

- | | |
|---|------------------------|
| パネル 東日本大震災と宗教 | 代表者：稲場 圭信 |
| 14:00-16:00 宗教の救援活動・応答—宗教者災害救援ネットワークから— | 稲場 圭信 (阪大) |
| 宗教者の活動とソーシャルメディア | 榎本 香織 (東大) |
| 建学の精神と被災地支援—宗教立大学のばあい— | 弓山 達也 (大正大) |
| 神道系大学におけるボランティアコーディネーターの葛藤 | 板井 正斉 (皇學館大) |
| | コメンテータ・司会：黒崎 浩行 (國學院大) |

第2部会 宗教学、宗教史学、宗教と政治

G-202 教室

3日(土)

【午前】

- | | |
|---|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 国立大学神学部廃止とイタリア宗教史学 | 江川 純一 (東京工科大) |
| 2. 9:25- 9:45 折口信夫と大川周明—民俗学と宗教学の起源をめぐって— | 安藤 礼二 (多摩美術大) |
| 3. 9:50-10:10 「世界を宗教的に見る」という観念について | 飯田 篤司 (鎌倉女子大) |
| 4. 10:15-10:35 ミルチャ・エリアーデにおける「宗教」と「宗教学」 | 佐藤慎太郎 (東北大) |
| 5. 10:40-11:00 クリアヌの思想における反ソヴィエト的「宗教」 | 奥山 史亮 (北大) |
| 6. 11:05-11:25 宗教学と科学—I. P. Culianu の場合— | 佐々木 啓 (北大) |
| 7. 11:30-11:50 日本神話研究史の諸問題 | 松村 一男 (和光大) |
| 8. 11:55-12:15 「否定」の宗教学 | 関 一敏 (九大) |
| 9. 12:20-12:40 宗教存続のメカニズム—民族宗教の場合と制度化の意味— | 小田 淑子 (関西大) |

【午後】

- | | |
|--|--------------|
| 1. 14:00-14:20 明治政府の宗教政策とキリシタン集落 | 内藤 幹生 |
| 2. 14:25-14:45 戦前の宗務行政—文部省宗教局を中心に— | 大澤 広嗣 (文化庁) |
| 3. 14:50-15:10 宗務行政の実施した調査とその特徴 | 石井 研士 (國學院大) |
| 4. 15:15-15:35 戦後日本宗教ナショナリズムの分析枠組に関する試論 | 塚田 穂高 (國學院大) |
| 5. 15:40-16:00 天皇と黎帝・将軍と鄭王—日越国家祭祀比較研究序説— | 井上 智勝 (埼玉大) |

第1部会 宗教と社会

G-201 教室

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | カトリックの宗教儀礼のもつ社会的役割—初聖体の事例をもとに— | 岡光 信子 (東北大) |
| 2. 9:25- 9:45 | ドイツにおける移民統合政策とイスラームの制度化 | 堀 彩子 (一橋大) |
| 3. 9:50-10:10 | ラスタファリアニズムとブラックムスリムにおけるアフリカの記憶 | 上間 励起 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | アンテベラム期アメリカの宗教とジャーナリズム | 佐藤 清子 (東大) |
| 5. 10:40-11:00 | 現代日本社会における宗教と暴力—オウム真理教と「すぴこん」— | 橋迫 瑞穂 (立教大) |
| 6. 11:05-11:25 | 予言が当たったとき—アセンション信奉者の震災後の態度— | 堀江 宗正 (聖心女子大) |
| 7. 11:30-11:50 | 近代化・世俗化・宗教—危機の時代からの再考察— | 中野 毅 (創価大) |
| 8. 11:55-12:15 | パウルシー社会におけるナオジョテの意義 | 香月 法子 (中央大) |

【午後】

パネル 「社会貢献」の霊的次元—日本仏教からの再考—

代表者：戸田 游晏

- 13:15-15:15 「社会貢献」と日本仏教
修二会における祈りと咒
死者と協同する仏教は可能か
仏教看護をめざすもの

- 戸田 游晏 (宇部フロンティア大)
平岡 昇修 (東方学院)
坂井 祐円 (南山宗教文化研究所)
藤腹 明子 (仏教看護・ビハーラ学会)

コメンテータ・司会：實川 幹朗 (姫路獨協大)

第2部会 宗教と教育

G-202 教室

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 大学における宗教教育に関する認識と期待 | 荻野 勝行 (大阪大谷大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 近代日本における道徳教育—新渡戸稲造の場合— | 森上 優子 (文部科学省) |
| 3. 9:50-10:10 | 河野省三の神道観—神道教育に関する理論を中心に— | 中道 豪一 |
| 4. 10:15-10:35 | 大正自由主義教育と宗教教育論—『宗教教育講座』を中心に— | 齋藤 知明 (大正大) |
| 5. 10:40-11:00 | ドイツ・バイエルン州における宗教科と各宗教団体の関係 | 石川 智子 (立教大) |
| 6. 11:05-11:25 | 宗教系学校における性教育 | 猪瀬 優理 (龍大) |
| 7. 11:30-11:50 | 公教育からみるインドのセキュラリズム—歴史教科書の検討— | 澤田 彰宏 |
| 8. 11:55-12:15 | ケベックの「倫理・宗教文化」教育における「宗教」の位置 | 伊達 聖伸 (上智大) |

【午後】

1. 13:15-13:35 宗教学における分類の問題と教育
2. 13:40-14:00 宗教教育の二方向—水平的多元主義と垂直的多元主義のあいだ—

- 藤原 聖子 (東大)
津城 寛文 (筑波大)

パネル 「日本宗教史」を大学でどのように教えるか

代表者：星野 英紀

- 14:10-16:10 「日本宗教史」の教え方—特に仏教の論じ方と関連して—
「日本宗教史」の教え方—特に一神教の論じ方と関連して—
「日本宗教史」の教え方—特に中国宗教の論じ方と関連して—
「日本宗教史」の教え方—特に神道の論じ方と関連して—

- 石上 和敬 (武蔵野大)
小原 克博 (同志社大)
菊地 章太 (東洋大)
鎌田 東二 (京大)

コメンテータ：石井 研士 (國學院大)

日本宗教研究諸学会連合共催

司会：星野 英紀 (大正大)

3日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-----------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | エルンスト・トレルチと保守革命 | 小柳 敦史 (京大) |
| 2. 9:25- 9:45 | トレルチにおける〈文化史〉の概念 | 塩濱 健児 (北海学園大) |
| 3. 9:50-10:10 | 「ナザレのイエス」と近代ドイツ | 久保田 浩 (立教大) |
| 4. 10:15-10:35 | ルドルフ・オットーとデ・ヴェッテ | 藁科 智恵 (東京外語大) |
| 5. 10:40-11:00 | ルドルフ・シュタイナーのキリスト教論 | 野口 孝之 (東大) |
| 6. 11:05-11:25 | ブーバーにおける「原離隔」について | 田島 卓 (東大) |
| 7. 11:30-11:50 | M. ブーバーにおけるユダヤ教律法の祭儀規定 | 堀川 敏寛 (京大) |
| 8. 11:55-12:15 | 「生の宗教」の出現—ジンメル『宗教』の改訂をめぐって— | 深澤 英隆 (一橋大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|----------------------------|---------------|
| 1. 14:00-14:20 | ハンナ・アーレントの『人間の条件』再考—世界への愛— | 今出 敏彦 (奈良女子大) |
| 2. 14:25-14:45 | ボンヘッフアーの良心論 | 岡野 彩子 (阪大) |
| 3. 14:50-15:10 | エコ神学試論—ティリッヒを手掛かりに— | 近藤 剛 (神戸国際大) |
| 4. 15:15-15:35 | 「相関」という問題について | 松田健三郎 (天理大) |
| 5. 15:40-16:00 | 宗教的実在論と象徴—波多野とティリッヒ— | 芦名 定道 (京大) |

第4部会 ヨーロッパにおける宗教と哲学① G-222 教室

3日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | アリストテレスの友愛論とギリシャ悲劇 | 長峯素眞生 (中央大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 死を意味づける語り—古代キリスト教周辺と死生学— | 土居 由美 (立教大) |
| 3. 9:50-10:10 | オリゲネスの著述活動と「テキスト共同体」 | 出村みや子 (東北学院大) |
| 4. 10:15-10:35 | ミトラ教研究—16世紀のゾロアスター教ペルシア語写本から— | 青木 健 (早大) |
| 5. 10:40-11:00 | ユリアヌス帝の宗教政策における宗教地誌と「ヘレニズム」 | 中西 恭子 (明治学院大) |
| 6. 11:05-11:25 | プロクロスにおけるオケーマをめぐって | 土井 裕人 (筑波大) |
| 7. 11:30-11:50 | アウグスティヌス『告白』における新プラトン主義の位置づけ | 山田庄太郎 (筑波大) |
| 8. 11:55-12:15 | キリスト教教義の視覚化とその受容 | 細田あや子 (新潟大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 14:00-14:20 | 愛の観想—サン・ヴィクトール学派における交わりの神学— | 中村 秀樹 (上智大) |
| 2. 14:25-14:45 | マイスター・エックハルトにおける時間論の構造 | 田島 照久 (早大) |
| 3. 14:50-15:10 | クザーヌスの認識論と宇宙論—〈否定神学〉を可能にするもの— | 島田 勝巳 (天理大) |
| 4. 15:15-15:35 | 聖女／魔女考—西洋中・近世の魔女言説から— | 黒川 正剛 (太成学院大) |
| 5. 15:40-16:00 | いわゆる『魔女への鉄槌』における「魔女」概念について | 野村 仁子 (南山大) |

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 北方における復讐観—サガ・カレワラ・ユーカラをとおして— | 中里 巧 (東洋大) |
| 2. 9:25- 9:45 | ロシア思想の終末論的要素の問題について | 元春 智裕 |
| 3. 9:50-10:10 | ラインホルド・ニーバーの現実主義 | 澤井 治郎 (東北大) |
| 4. 10:15-10:35 | リタ・バセにおける「聖なる怒り」 | 伊原木詩乃 (西南学院大) |
| 5. 10:40-11:00 | レヴィナスにおける言語と他性 | 重松 健人 (関西学院大) |
| 6. 11:05-11:25 | 対話と翻訳—リクールの翻訳論を手がかりにして— | 長谷川琢哉 (大谷大) |
| 7. 11:30-11:50 | 記憶論が宗教哲学にもたらすもの—ルロワ＝グーランを中心に— | 佐藤 啓介 (聖学院大) |
| 8. 11:55-12:15 | ゲオルグ・カントルの神学 | 落合 仁司 (同志社大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------------|
| 1. 13:15-13:35 | 初期R. ロランにおける芸術と宗教 | 掛川 富康 (茨城キリスト教大) |
| 2. 13:40-14:00 | 最近のハーバーマスの宗教論について—世俗倫理と宗教倫理の間— | 後藤 正英 (佐賀大) |
| 3. 14:05-14:25 | 言語的宗教構成主義の可能性—ブランダムの単称名問題を受けて— | 松野 智章 (大正大) |
| 4. 14:30-14:50 | 基督教に対する理論上の四つの疑問及び理由と当該論の若干の適用 | 工藤 亨 |
| 5. 14:55-15:15 | 現代思想の宗教回帰—スラヴォイ・ジジェクの議論を中心として— | 加藤 喜之 (プリンストン神学校) |

第4部会 ヨーロッパにおける宗教と哲学② G-222 教室

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | スピノザの自由について | 鈴石 忠司 (大正大) |
| 2. 9:25- 9:45 | ウェスレーのサタン理解 | 野村 誠 (共愛学園前橋国際大) |
| 3. 9:50-10:10 | カントの人間観と最高善 | 南 翔一郎 (京大) |
| 4. 10:15-10:35 | フィヒテ宗教論の展開とシェリング | 諸岡道比古 (弘前大) |
| 5. 10:40-11:00 | 神性と人間—フリードリヒ・シラーの遊戯衝動について— | 田口 博子 (工学院大) |
| 6. 11:05-11:25 | キルケゴールにおける正義の問題—「真理の証人」概念から— | 須藤 孝也 (一橋大) |
| 7. 11:30-11:50 | ニーチェ後期思想における宗教と「教育」という問題 | 松田 愛 (京大) |
| 8. 11:55-12:15 | ニーチェにおける「信仰」とその超克 | 木原 英史 (大谷大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-------------------------|------------|
| 1. 13:15-13:35 | 前期ヤスパースにおける信仰と信仰の交わりの問題 | 藤田 俊輔 (京大) |
| 2. 13:40-14:00 | ヤスパースとブルトマン | 岡田 聡 (早大) |

パネル 宗教間対話の思想—理性は文化の多様性を超えるか—

代表者：八巻 和彦

- | | | |
|-------------|------------------------------|---------------|
| 14:10-16:10 | アンセルムス—諸文化を越境する理性— | 矢内 義顕 (早大) |
| | 宗教間対話の思想としてのトマス・アキナスの信仰理解 | 芝元 航平 (上智大) |
| | トマス・アキナスの自然法はどこまで普遍的か | 川添 信介 (京大) |
| | 14世紀ビザンツにおける理性と宗教問題—キドニスを試み— | 橋川 裕之 (静岡県立大) |

コメンテータ・司会：八巻 和彦 (早大)

第5部会 イスラーム、ユダヤ思想

G-223 教室

3日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|---------------------------------|--------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | タバリーのタフスィールにおけるクルアーン解釈理論 | 澤井 真 (東北大) |
| 2. 9:25- 9:45 | マイモニデスにおけるイスラーム思弁神学者の神学論議 | 神田 愛子 (同志社大) |
| 3. 9:50-10:10 | スーフィー文学におけるシンボリズムとナータ・ヨーガ | 榊 和良 (北海道武蔵女子短大) |
| 4. 10:15-10:35 | イスラーム的自然法論の意義と問題点 | 浜本 一典 (同志社大) |
| 5. 10:40-11:00 | アレヴィー／アレヴィーリキの認識と政治—宗教と文化の間— | 佐島 隆 (大阪国際大) |
| 6. 11:05-11:25 | グローバル化の中のイスラーム—イスラームの市場価値化をめぐる— | 八木久美子 (東京外語大) |
| 7. 11:30-11:50 | 仏教徒が語るアッラー—教義の壁への挑戦— | 小布施祈恵子 (NCC 宗教研究所) |
| 8. 11:55-12:15 | —神教による偶像崇拜批判が意味するもの | 若林 明彦 (法政大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 14:00-14:20 | その地(創世記1:2a)は混沌であったか | 野口 誠 |
| 2. 14:25-14:45 | アブラハムの沈黙とテキストの沈黙—創22における三日の旅路— | 岩崎 大悟 (関西学院大) |
| 3. 14:50-15:10 | ユダヤ教の「呪術」観—成文律法と口伝律法の比較から— | 大澤 耕史 (京大) |
| 4. 15:15-15:35 | 申命記における祭司と王—社会的アイデンティティ理論の適用— | 高橋 優子 (明治学院大) |
| 5. 15:40-16:00 | ユダヤ教聖書解釈における「預言者」と「祭司」のパラダイム | 勝又 悦子 (同志社大) |

第6部会 インド仏教

G-224 教室

3日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 『雑阿毘曇心論』業品における無間業の最大罪と最大果について | 智谷 公和 (相愛大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 古代インドにおける支配について—vaśa と vasa— | 杉岡 信行 (近大) |
| 3. 9:50-10:10 | 不二一元論学派の仏教批判 | 佐竹 正行 (東洋大) |
| 4. 10:15-10:35 | —闡提について | 南部千代里 (大正大) |
| 5. 10:40-11:00 | 第一結集における阿難—有学から無学へ— | 龍口 明生 (龍大) |
| 6. 11:05-11:25 | 大乘仏教教団の連帯感—「善男子善女子」の原意— | 阿 理生 (九大) |
| 7. 11:30-11:50 | 『十地経』各地における結語部分について | 平賀由美子 (高野山大) |
| 8. 11:55-12:15 | 『阿毘達磨俱舍論』における作用の意義 | 日比 佑香 (立正大) |
| 9. 12:20-12:40 | 東南アジア撰述仏典の特質 | 茨田 通俊 (東方研究会) |

【午後】

パネル 近代国家におけるサンガ・僧侶

- 14:00-16:00
- なぜインド仏教は消滅したか
ミャンマーにおける国家・サンガ関係
カンボジアにおけるサンガの断絶と復古
東アジアの近代仏教—Eastern Buddhismの成立—

代表者：林 淳

立川 武蔵 (国立民族学博物館)

藏本 龍介 (東大)

小林 知 (京大)

林 淳 (愛知学院大)

コメンテーター：蓑輪 顕量 (東大)

司会：林 淳 (愛知学院大)

第5部会 宗教経験、芸術、スピリチュアリティ G-223 教室

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|----------------------------|------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 芸術とスピリチュアリティー美大生への質問紙調査からー | 久保田 力 (東北芸術工科大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 「迷宮」図像群とスピリチュアルケア | 中島和歌子 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 | 追憶の匂いーむかしの香にぞなほにほひけるー | 吉村 晶子 (学習院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 物語の宗教性に関する心理学的考察 | 大澤千恵子 (恵泉女学園大) |
| 5. 10:40-11:00 | 宗教体験の語りの諸相とその現代的意義 | 村上 晶 (筑波大) |
| 6. 11:05-11:25 | 「体験の学知」としての近世西欧神秘主義批判 | 渡辺 優 (東大) |
| 7. 11:30-11:50 | 諸伝統における「宇宙的聖歌・祈り」の概念をめぐる考察 | リアナ・トルファシュ (筑波大) |
| 8. 11:55-12:15 | ユングの“世界観”についての一考察 | 杉岡 正敏 (京都造形芸術大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|------------------------|-------------|
| 1. 13:15-13:35 | ルドルフ・シュタイナー神秘主義における宗教性 | 西井 美穂 (広島大) |
| 2. 13:40-14:00 | 井筒俊彦の神秘主義論とその意味構造 | 澤井 義次 (天理大) |

パネル 瞑想的世界認識と宗教研究

代表者：葛西 賢太

- | | | |
|-------------|-------------------------|------------------|
| 14:10-16:10 | MBSRにおけるスピリチュアリティのあり方 | 井上ウイマラ (高野山大) |
| | F. バレーラが開いた瞑想と認知科学の出会い | 村川 治彦 (関西大) |
| | 井筒俊彦の瞑想体験と東西思想の比較研究 | 葛西 賢太 (宗教情報センター) |
| | 玉城康四郎の仏教学と現代スピリチュアリティ研究 | 伊藤 雅之 (愛知学院大) |
| | コメンテータ・司会：鶴岡 賀雄 (東大) | |

第6部会 中国仏教 G-224 教室

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 新発見安世高訳『十二門経』における写本構造上の問題点 | 洪 鴻榮 (法鼓佛教學院) |
| 2. 9:25- 9:45 | 『論註』「名義撰対」の論理とその背景 | 田中 無量 (龍大) |
| 3. 9:50-10:10 | 「往生伝類」における善導・善道間についての一考察 | 山崎 真純 (龍大) |
| 4. 10:15-10:35 | 無量寿経の浄土観 | 緒方 義英 (東九州短大) |
| 5. 10:40-11:00 | 吉蔵の法華経疏における仏身論ー寿量品の解釈を中心としてー | 藤野 泰二 (立正大) |
| 6. 11:05-11:25 | 雲棲株宏の不殺生思想 | 西村 玲 (東方研究会) |
| 7. 11:30-11:50 | 「アヒンサー」の実践をめぐるチベット仏教僧と漢民族信徒の関係 | 別所 裕介 (広島大) |
| 8. 11:55-12:15 | 近代中国東北部仏教の一動向 | 野世 英水 (龍大) |

第7 部会 浄土真宗

G-225 教室

3日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|---------------------------|--------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 親鸞の回向思想について | 中山 彰信 (九州情報大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 親鸞の念仏の内的構造 | 加藤 智見 (東京工芸大) |
| 3. 9:50-10:10 | 親鸞「自然法爾」における「はからひ」の意味 | 藤 能成 (九州龍谷短大) |
| 4. 10:15-10:35 | 親鸞の六字釈について | 貫名 譲 (大阪大谷短大) |
| 5. 10:40-11:00 | 親鸞における善光寺信仰について | 安藤 章仁 (龍大) |
| 6. 11:05-11:25 | 存覚上人の行信理解における一考察 | 川野 寛 (龍大) |
| 7. 11:30-11:50 | 環中の廻心についての一考察—『正中録』著述の真意— | 西原 法興 (龍大) |
| 8. 11:55-12:15 | 七百五十回忌の親鸞像私考 | 御手洗隆明 (真宗大谷派教学研究所) |
| 9. 12:20-12:40 | 浄土真宗と現代社会 | 林 智康 (龍大) |

第8 部会 日蓮系仏教、近代仏教

G-226 教室

3日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 日蓮の宗教性の原体験—正嘉の大地震と禍の預言の形成— | 笠井 正弘 |
| 2. 9:25- 9:45 | 再度、日蓮の地涌・上行自覚を論ず—山上氏の批判をうけて— | 間宮 啓壬 (身延山大) |
| 3. 9:50-10:10 | 日蓮における無戒思想の宗教的意味 | 北川 前肇 (立正大) |
| 4. 10:15-10:35 | 日興門流における諫暁活動の展開 | 本間 俊文 (立正大) |
| 5. 10:40-11:00 | 編年体御書目録『祖書目次』の書誌学的研究 | 木村 中一 (身延山大) |
| 6. 11:05-11:25 | 近世日蓮伝記本『本化高祖紀年録』における挿絵の特徴 | 望月 真澄 (身延山大) |
| 7. 11:30-11:50 | 近代日蓮仏教と生命言説—日蓮系新宗教の救済観の比較— | 大西 克明 (東洋大) |
| 8. 11:55-12:15 | 日蓮における信徒教化—病を中心として— | 奥野 本勇 (日蓮教学研究所) |
| 9. 12:20-12:40 | 日蓮『注法華経』寿量品における『法華文句』の注記について | 関戸 堯海 (立正大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-----------------|
| 1. 14:00-14:20 | 山川智応の浄土教批判 | 前川 健一 (東洋哲学研究所) |
| 2. 14:25-14:45 | 近代仏教と須弥山儀—近代的自然観と仏教— | 岡田 正彦 (天理大) |
| 3. 14:50-15:10 | 近代仏教における世界観と社会観—真宗僧佐田介石を中心として— | 常塚 聡 (親鸞仏教センター) |
| 4. 15:15-15:35 | 近代真宗の「恩寵主義」に関する一考察—多田鼎を事例として— | 春近 敬 (親鸞仏教センター) |
| 5. 15:40-16:00 | 横川頭正の『禅思想史』観 | 和田 真二 (帝塚山学院大) |

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|---------------------|
| 1. 9:00-9:20 | 日本律宗の海東仏教認識について | 福士 慈稔 (身延山大) |
| 2. 9:25-9:45 | 然阿良忠における『十住毘婆娑論』理解 | 那須 一雄 |
| 3. 9:50-10:10 | 平安期の仏教説話集と〈贈与論〉—『注好選』を中心に— | 稲城 正己 (京都文教大) |
| 4. 10:15-10:35 | 『西方発心集』の思想と表現 | 龍口 恭子 (東方学院) |
| 5. 10:40-11:00 | 『教時問答』における「一心一心識・一切一心識」について | 土倉 宏 (東洋大) |
| 6. 11:05-11:25 | 『正法眼蔵』「座禅箴」の考察—還源返本について— | 清藤 久嗣 (曹洞宗総合研究センター) |
| 7. 11:30-11:50 | 「明鏡」の比喻について—中国仏教と日本禅仏教の比較より— | 宮地 清彦 (曹洞宗総合研究センター) |

【午後】

パネル アジア／戦争／新仏教

- 13:15-15:15 近代日本仏教史研究における〈アジア〉と〈戦争〉
東アジア世界に対する新仏教徒の視線
新仏教徒の戦争観
新仏教徒のラジオ出演—高嶋米峰を中心に—

代表者：大谷 栄一

大谷 栄一 (佛教大)

高橋 原 (東大)

守屋 友江 (阪南大)

坂本 慎一 (PHP 研究所)

コメンテータ：岩田 文昭 (大阪教育大)

司会：大谷 栄一 (佛教大)

第8部会 仏教・芸能・民俗

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 9:00-9:20 | 謡曲における仏僧—僧ワキの宗教的機能について— | 今泉 隆裕 (桐蔭横浜大) |
| 2. 9:25-9:45 | 在家仏教の顕れとしての説経節 | 千葉 俊一 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 | 瑠璃壇考—信州善光寺の場合— | 小林 順彦 (大正大) |
| 4. 10:15-10:35 | 『弘智法印御伝記』と即身仏の研究 | ジョン・モリス (東北大) |
| 5. 10:40-11:00 | 白山—『秦澄和尚伝』、『白山記』がかたるもの— | 小林 一葵 |
| 6. 11:05-11:25 | 脊振山肥前側における宗教民俗—主に天台系寺院との関係から— | 亀崎 敦司 (九大) |
| 7. 11:30-11:50 | 祈祷寺院における聖地空間と信者のニーズ | 阿部 友紀 (東北大) |
| 8. 11:55-12:15 | 仏神の現代的展開—金毘羅神のポストモダン— | 白川 琢磨 (福岡大) |

第9 部会 日本思想、神道、新宗教①

G-227 教室

3日(土)

【午前】

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00- 9:20 陰陽道における「神話」の意義 | 小池 淳一 (国立歴史民俗博物館) |
| 2. 9:25- 9:45 〈殺す神〉としての須佐之男命について | 小濱 歩 (國學院大) |
| 3. 9:50-10:10 北畠親房における祭政一致説の意義 | 齋藤 公太 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 禁裏御師について | 加崎 千恵 (皇學館大) |
| 5. 10:40-11:00 近世期における西京神人の変化 | 吉野 亨 (國學院大) |
| 6. 11:05-11:25 岡田氏本『藤樹先生年譜』考 | 鈴木 保實 (愛知県立千種高) |
| 7. 11:30-11:50 山崎闇斎の「神」概念について | 孫 傳玲 (名大) |
| 8. 11:55-12:15 手島堵庵の思想と宗教体験 | 澤井 努 (京大) |

【午後】

- | | |
|---|-----------------|
| 1. 14:00-14:20 排仏思想における二様のベクトル—反仏教者の言説の再検討— | 森 和也 (東方研究会) |
| 2. 14:25-14:45 伯家神道の展開に関する一考察 | 山口 剛史 (皇學館大) |
| 3. 14:50-15:10 平田篤胤と道教—『志都能石屋』『鬩宗仲景考』について— | 坂出 祥伸 (森ノ宮医療大) |
| 4. 15:15-15:35 前橋神女と平田門人たち | 三ツ松 誠 (日本学術振興会) |
| 5. 15:40-16:00 自然災異の神道的表象の認知宗教学的アプローチの試み | 井上 順孝 (國學院大) |

第10 部会 近代日本と宗教①

IS-206 教室

3日(土)

【午前】

- | | |
|---|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 曾我量深の象徴世界観 | 村山 保史 (大谷大) |
| 2. 9:25- 9:45 西田幾多郎における罪・悪の問題 | 太田 裕信 (京大) |
| 3. 9:50-10:10 西田とハイデガー—絶対無の自覚と存在了解— | 岡 廣二 (十文字高) |
| 4. 10:15-10:35 『善の研究』と「宗教的要求」 | 杉本 耕一 (大阪教育大) |
| 5. 10:40-11:00 後期西谷啓治の身体論—大谷大学講義より— | 小野 真 (相愛大) |
| 6. 11:05-11:25 鈴木大拙の道元理解 | 蓮沼 直應 (筑波大) |
| 7. 11:30-11:50 鈴木大拙と華嚴経 | 嶋本 浩子 (日本経済大) |
| 8. 11:55-12:15 靈的知識人としての上原専祿—その晩年の思想を中心に— | 安藤 泰至 (鳥取大) |

【午後】

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| パネル 新しい近代日本仏教研究へ—自他認識・国民国家・社会参加— | 代表者：オリオン・クラウタウ |
| 14:00-16:00 近代移行期における真宗—護法論を中心に— | 岩田 真美 (龍大) |
| 監獄教誨の誕生—明治前期の国家・仏教・統治— | 繁田 真爾 (早大) |
| 明治中期における日本仏教の言説的位相—仏教公認運動を中心に— | オリオン・クラウタウ (日本学術振興会) |
| 仏の語り方の近代—近角常観を中心に— | 碧海 寿広 (宗教情報リサーチセンター) |
| | コメンテータ：島藺 進 (東大) |
| | 司会：オリオン・クラウタウ (日本学術振興会) |

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | アーネスト・サトウと国学 | 遠藤 潤 (國學院大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 近代日本における大祓詞の解釈 | 鈴木 一彦 (國學院大) |
| 3. 9:50-10:10 | 明治期の祭祀制度 | 竹内 雅之 (國學院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 〈聖なる皇族〉と宮内省一宮内庁所蔵公文書の分析から一 | 茂木謙之介 (東大) |
| 5. 10:40-11:00 | ヴェーバー文化発展理論と維新期の国家神道一華族と政治権力一 | 池田 昭 |
| 6. 11:05-11:25 | 不安障害と日本の宗教一天理教の事例から一 | 熊田 一雄 (愛知学院大) |
| 7. 11:30-11:50 | 八百万一神教一大本教の神思想について一 | 川島 堅二 (恵泉女学園大) |
| 8. 11:55-12:15 | 新宗教研究と複数の経路 | 永岡 崇 (阪大) |

【午後】

パネル 日本宗教の環境倫理と社会活動

代表者：寺田 喜朗

- | | | |
|-------------|-------------------------------|-----------------------|
| 13:15-15:15 | シンプルライフ普及センターの仏教理念と市民的实践 | 小笠原宏樹 |
| | 現代日本の大学生のモノ消費観 | 隈元 正樹 (東洋大) |
| | 草の根エコ運動の現状と課題一立正佼成会の環境配慮活動一 | 深田伊佐夫 (中央学術研究所) |
| | 炭素ゼロ運動にみる環境倫理一生長の家の環境方針と教団実践一 | 寺田 喜朗 (大正大) |
| | | コメンテーター：小島 伸之 (上越教育大) |
| | | 司会：寺田 喜朗 (大正大) |

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 西郷隆盛はキリシタンだったか？ | 坂本 進 |
| 2. 9:25- 9:45 | 久米邦武の幸福論 | 西田みどり (大正大) |
| 3. 9:50-10:10 | 神との出会いと自然をめぐる諸経験一透谷・独歩・蘆花の場合一 | 柴田真希都 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | 山村暮鳥のキリスト教思想 | 岩野 祐介 (関西学院大) |
| 5. 10:40-11:00 | 賀川豊彦の悪概念 | スティッグ・リンドバーグ (京大) |
| 6. 11:05-11:25 | 逢坂元吉郎の身体論 | 寺尾 寿芳 (南山宗教文化研究所) |
| 7. 11:30-11:50 | 斎藤茂吉の病者への眼差し | 小泉 博明 (文京学院大) |

第 11 部会 宗教と死者儀礼

IS-208 教室

3日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | ヒンドゥー教の葬儀と祖先祭祀 | 虫賀 幹華 (東大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 韓国葬儀文化と近代—慶尚南道南海郡を事例として— | 田中 悟 (神戸大) |
| 3. 9:50-10:10 | 韓国降神巫の地域的様相—憑依霊としての死者を通して— | 川上 新二 (駒大) |
| 4. 10:15-10:35 | 送葬における遺品と貨幣—唱衣法の考察から— | 金子 奈央 (東方研究会) |
| 5. 10:40-11:00 | 遺影奉納と死者の追悼—岩手県宮古市のある寺院の事例から— | 山田 慎也 (国立歴史民俗博物館) |
| 6. 11:05-11:25 | 奄美・南薩地域と戦争死者慰霊—戦局環境複合の慰霊論に向けて— | 西村 明 (鹿児島大) |
| 7. 11:30-11:50 | 死者の棲むランドスケープ—公園緑地協会の墓苑構想について— | 土居 浩 (ものづくり大) |
| 8. 11:55-12:15 | 墓と人のエージェンシー—現代沖縄における墓の変容を事例に— | 越智 郁乃 (広島大) |
| 9. 12:20-12:40 | 情報化による墓参りの変容 | 坪内 俊行 (慶大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|---------------------------|----------------------|
| パネル | 死者供養をめぐる諸問題—東アジアの視点から— | 代表者：松尾 剛次 |
| 14:00-16:00 | 人はなぜ石塔墓をたてるのか—阿弥陀信仰と弥勒信仰— | 松尾 剛次 (山形大) |
| | 幽霊の誕生—江戸時代における死者供養の変容— | 佐藤 弘夫 (東北大) |
| | 無遮と無主—無縁供養の動態性— | 池上 良正 (駒大) |
| | 変貌する韓国の死者供養に対する人々の意識と葛藤 | 井上 治代 (東洋大) |
| | | コメンテータ：岡田真美子 (兵庫県立大) |
| | | 司会：松尾 剛次 (山形大) |

第 12 部会 世界の諸地域とキリスト教

IS-106 教室

3日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | サンタ・ムエルテ信仰をめぐる正統性とその変化 | 井上 大介 (創価大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 分裂と信仰実践—ネパールにおけるプロテスタントの教会分裂— | 丹羽 充 (日本学術振興会) |
| 3. 9:50-10:10 | エジプト1月25日革命とコプト・キリスト教 | 岩崎 真紀 (筑波大) |
| 4. 10:15-10:35 | 大阪万博キリスト教館にみるキリスト教の戦後 | 川口 葉子 (阪大) |
| 5. 10:40-11:00 | 宗教からみる日韓の文化交流—キリスト教と新宗教を手がかりに— | 李 賢京 (日本学術振興会) |
| 6. 11:05-11:25 | 日本産ブラジル系プロテスタント教会信者のブラジルへの再適応 | 山田 政信 (天理大) |
| 7. 11:30-11:50 | ハーレムの黒人教会を考える | 芦名 裕子 (天理大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|--------------------------|-------------------------|
| パネル | 多様化する現代日本の「移民と宗教」の理解に向けて | 代表者：高橋 典史 |
| 14:00-16:00 | 現代日本の滞日外国人の宗教状況とその研究動向 | 高橋 典史 (東京学芸大) |
| | ブラジル系教会の場合—適応と自立のはざままで— | 星野 壮 (大正大) |
| | 中華系キリスト教会の東アジア展開 | 藤野 陽平 (日本学術振興会) |
| | カトリック教会による滞日外国人への支援 | 白波瀬達也 (大阪市立大) |
| | | コメンテータ：中牧 弘允 (国立民族学博物館) |
| | | 司会：高橋 典史 (東京学芸大) |

第11 部会 宗教と民俗

IS-208 教室

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 自然物および人工物の擬人化にみられる信仰心 | 永原 順子 (高知工業高専) |
| 2. 9:25- 9:45 | 沖縄の抱護と集落の位置関係 | 鈴木 一馨 (東方研究会) |
| 3. 9:50-10:10 | 過疎地域の祭祀現状—単一産業型集落栃木県旧足尾町の事例— | 冬月 律 (國學院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 洪水と稲作儀礼—大垣市十六町の粥占いを中心に— | 下本英津子 (名大) |
| 5. 10:40-11:00 | 流行神をめぐる—考察 | 黄 緑萍 (東北大) |
| 6. 11:05-11:25 | 祝(ホウリ)と動物供犠 | 鈴木 良幸 (名大) |
| 7. 11:30-11:50 | 「霊媒」再考 | 佐藤 憲昭 (駒大) |
| 8. 11:55-12:15 | 江戸期の伊勢・山田における寺院の変遷—寺町の形成と崩壊— | 河野 訓 (皇學館大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|----------------------|---------------|
| 1. 13:15-13:35 | 東京都二十三区域西北部の「路傍の地藏」 | 清水 邦彦 (金沢大) |
| 2. 13:40-14:00 | 神概念をめぐる言説空間—現代日本の場合— | 近藤 光博 (日本女子大) |

第12 部会 アジアの諸地域と宗教

IS-106 教室

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | マハトマ・ガンディーにおける宗教的多元主義と世俗主義 | 外川 昌彦 (広島大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 天宙清平祈禱苑の「恨言説」—90年代以降の統一教の恨 | 古田 富建 (帝塚山学院大) |
| 3. 9:50-10:10 | ヤチェン修行地におけるカリスマの動向—中国四川省の宗教政策— | 川田 進 (大阪工業大) |
| 4. 10:15-10:35 | 東シナ海周辺地域の媽祖信仰と日本の聖母信仰 | 本間 浩 (國學院大) |
| 5. 10:40-11:00 | 1990年代台湾の社会変化とアミ族宗教のシャーマニズム的対応 | 原 英子 (岩手県立大) |
| 6. 11:05-11:25 | バリ島の宗教儀礼におけるトランスと変容力について | 磯 忠幸 (関西大) |
| 7. 11:30-11:50 | 戦後のサラワクにおける人類学とアダット | 土佐美菜実 (東北大) |
| 8. 11:55-12:15 | タイ上座仏教と行政事業 | 矢野 秀武 (駒大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|---------------------------|----------------|
| 1. 13:15-13:35 | 翻訳と布教—タイにおける天理教の事例から— | 永松 和郎 (九大) |
| 2. 13:40-14:00 | 植民地布教の実態と虚像—朝鮮布教統計表の解析から— | 工藤 英勝 (曹洞宗宗務庁) |

パネル 植民地朝鮮と宗教—宗教概念論を超えて—

代表者：磯前 順一

- | | | |
|-------------|-------------------------------|----------------------|
| 14:10-16:10 | 植民地朝鮮における宗教概念をめぐる言説編成 | 磯前 順一 (国際日本文化研究センター) |
| | 1910年前後における「宗教」の行方—帝国史の観点から— | 金 泰勳 (立命館大) |
| | 渡瀬常吉の朝鮮伝道における論理—その初期伝道活動を中心に— | 裴 貴得 (立命館大) |
| | 崔南善と「朝鮮の固有信仰」 | 沈 熙燦 (立命館大) |

コメンテータ：桂島 宣弘 (立命館大)

司会：磯前 順一 (国際日本文化研究センター)

第13部会 宗教と医療、生命倫理

IS-105 教室

3日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 苦しみの医療化 | 土田 友章 (早大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 痛みの宗教的意味 | 村上 喜良 (立正大) |
| 3. 9:50-10:10 | 「障害」のキリスト教的意味 | 寺戸 淳子 (専修大) |
| 4. 10:15-10:35 | 真宗文化圏域での障害者運動の可能性-CIL だんないの研究- | 頼尊 恒信 (熊本学園大) |
| 5. 10:40-11:00 | 浄土真宗本願寺派におけるビハーラ活動の意義 | 伊東 秀章 (龍大) |
| 6. 11:05-11:25 | 自殺に対する宗教者の活動について | 小川 有閑 (国際宗教研究所) |
| 7. 11:30-11:50 | 仏教とカウンセリング | 友久 久雄 (龍大) |
| 8. 11:55-12:15 | 代替療法「ホメオパシー」をめぐる言説の分析 | 平野 直子 (早大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|------------------------------|--------------|
| 1. 14:00-14:20 | 宗教者としてのエンゲルハートー宗教的生命倫理という試み- | 池澤 優 (東大) |
| 2. 14:25-14:45 | 仏教の生命観と代理母 | 金 永晃 (大正大) |
| 3. 14:50-15:10 | 宗教的な行為としてのホスピタリティについての一考察 | 吉田 恵 (イエール大) |
| 4. 15:15-15:35 | 先端医療技術における弱者へのケア | 冲永 隆子 (帝京大) |

第14部会 宗教とジェンダー

IS-108 教室

3日(土)

【午前】

- | | | |
|---------------|------------------------------|-------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 京鹿子娘道成寺における聖なる女性についての一考察 | 東本早紀子 (山口大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 宗教における“女”の伝統ー天理教婦人会についての一考察ー | 堀内みどり (天理大) |
| 3. 9:50-10:10 | 仏教と女性をめぐる現代的課題ー女性仏教徒たちの語りからー | 丹羽 宣子 (一橋大) |

パネル 教団改革運動と女性ージェンダー宗教学の視点からー

代表者：川橋 範子

- | | | |
|-------------|-----------------------------|----------------|
| 10:20-12:20 | 開かれた伝統仏教教団とジェンダー宗教学の交差するところ | 川橋 範子 (名古屋工業大) |
| | アメリカの浄土真宗における女性たち | 本多 彩 (兵庫大) |
| | 聖公会における司祭職の再検討ー女性の司祭叙任をめぐるー | 香山 洋人 (立教大) |
| | 女性聖職者の按手をめぐるー在日大韓キリスト教会の事例ー | 李 恩子 (関西学院大) |
| | コメンテータ・司会：小松加代子 (多摩大) | |

【午後】

パネル 「伝統」と「近代」を超える女性の実践ージェンダーの視座からー 代表者：小林奈央子

- | | | |
|-------------|--------------------------------|---------------|
| 14:00-16:00 | 「良妻賢母」の登場ーポスト社会主義のロシア正教会の女性像ー | 井上まどか (清泉女子大) |
| | 近代医療のなかで上座仏教をいきるー中国タイ族女性の出産からー | 磯部 美里 (名大) |
| | 現代医療の現場にみる伝統宗教ー天使の病棟訪問ー | 石井賀洋子 (中部大) |
| | 女性修験者とライフコースー「在家」宗教者の葛藤と克服ー | 小林奈央子 (慶大) |
| | コメンテータ：黒木 雅子 (京都学園大) | |
| | 司会：小林奈央子 (慶大) | |

第13部会 宗教と科学、心理学

IS-105 教室

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | フランス・ベイコンにみる自然探求の宗教性 | 下野 葉月 (東大) |
| 2. 9:25- 9:45 | ウィリアム・ジェイムズにおける科学と宗教 | 林 研 (大谷大) |
| 3. 9:50-10:10 | 「信」をめぐる一認知科学的観点からの現実/虚構一 | 谷内 悠 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | 近年の宗教心理学における死と宗教一比較的考察一 | イーリヤ・ムスリン (東大) |
| 5. 10:40-11:00 | 心と脳の概念性と実在 | 冲永 宜司 (帝京大) |
| 6. 11:05-11:25 | 創造論批判の科学的検証一R. ドーキンスの事例を中心として一 | 十津 守宏 (鈴鹿短大) |
| 7. 11:30-11:50 | 脳神経科学と宗教一自由意志と決定論の問題を中心の一 | 方 俊植 (京大) |
| 8. 11:55-12:15 | J. ヒックの自由意志論一神経科学の挑戦に対する一応答一 | 保呂 篤彦 (筑波大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|----------------|
| 1. 13:15-13:35 | 日本における「宗教を精神医学からみる研究」の視点の諸相 | 大宮司 信 (北翔大) |
| 2. 13:40-14:00 | プラグマティズムとしての専修念仏 | 菱木 政晴 (同朋大) |
| 3. 14:05-14:25 | 妙好人浅原才市における「入信」に至る心的過程に関する一考察 | 中尾 将大 (大阪大谷短大) |
| 4. 14:30-14:50 | ルドルフ・オットーと禅—Geleitwort から— | 木村 俊彦 |

第14部会 宗教と観光、巡礼

IS-108 教室

4日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 世界遺産のオーセンティシティ概念と神仏習合 | 中西 裕二 (日本女子大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 二大霊場巡拝者の実態一四国と西国を比較して一 | 柴谷 宗叔 (高野山大) |
| 3. 9:50-10:10 | 四国遍路のグローバル化に関する一考察 | 浅川 泰宏 (埼玉県立大) |
| 4. 10:15-10:35 | 巡礼者の定義をめぐる差異の所在—イード&サルノウ後の展開— | 土井 清美 (東大) |
| 5. 10:40-11:00 | 現代の聖地にみる「癒し」と「蘇り」—熊野セラピーを事例に一 | 天田 顕徳 (筑波大) |
| 6. 11:05-11:25 | 観光地としての聖地—ブラジル世界救世教の聖地ガラピランガー | 松岡 秀明 (淑徳大) |
| 7. 11:30-11:50 | 聖なる観光地—宗教ツーリズム論からみたパワースポット— | 岡本 亮輔 (筑波大) |
| 8. 11:55-12:15 | 新しい巡礼の創出—長崎カトリック教会群の世界遺産化— | 山中 弘 (筑波大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------|
| 1. 13:15-13:35 | 国際ツーリズムと華人祭祀—タイとマレーシアの事例をもとに一 | 山下 博司 (東北大) |
| 2. 13:40-14:00 | 九曜信仰と聖地巡礼—南インド、タミル・ナードゥ州の事例から— | 飯塚 真弓 (京大) |

パネル	現代沖縄の社会、文化にみる「本土化」と「沖縄化」の相互作用	代表者：村上 興匡
14:10-15:50	沖縄の死者慣行にみる「本土化」と「沖縄化」の相互作用	村上 興匡 (大正大)
	聖地の観光資源化による沖縄表象の創出	塩月 亮子 (跡見学園女子大)
	社会事業としての遺骨収集—沖縄の戦死者の現在—	佐藤 壮広 (大正大)
		コメンテーター：具志堅邦子 (沖縄国際大)
		司会：村上 興匡 (大正大)

レジュメの作成と提出の注意

『宗教研究』への掲載は、発表を行い、9月4日各部会終了時まで「レジュメ（表紙と本文）の紙原稿」を提出された方に限ります。

必ず、23頁の「レジュメの表紙」・本文の順にホチキスでとめ、部会責任者にお渡し下さい。

【締切】 9月4日 各部会の終了時間（部会ごとに終了時間が異なります）

以後の提出、校正時の変更は、認められません。完全原稿を提出して下さい。

【枚数】 パソコン原稿（縦書き）——1行40字×40行以内。 総文字数ではありません。

超過している場合は掲載できません。以下の書式をお守り下さい。

【書式】 用紙：A4横置き 設定：縦書き 1行40字×40行

文字サイズ：一律 10.5ポイント 邦文のフォント：MS明朝

- ・1頁目——表紙（発表題目、発表者名、欧文タイトル、発表者のローマ字表記）を入力
- ・2頁目——本文 を入力

手書きは、400字詰原稿用紙4枚以内（但し、当方でパソコンに入力し、40字×40行以内）

【本文】 縦書き。邦文中の数字は、漢数字を用いる。常用漢字、現代仮名づかいを用いる。

注記、参考文献は、本文中に括弧で挿入して下さい。図表等の掲載はできません。

【欧文タイトル】 邦文題目に副題がない場合、サブタイトルを付けることは不可。

英語——邦文題目に照らして、ネイティブスピーカーが手を加えることがあります。

英語以外の言語——発表者が提出したタイトル通りに掲載します。

電子データの提出方法

紙原稿の他に、電子データ（表紙と本文）も、ご提出下さい。

この場合も、必ず大会最終日までに、所定の表紙を付して、出力紙を提出して下さい。

メールによる電子データの送信のみでは、掲載不可です。

電子データ（表紙と本文）は、Eメールで送信して下さい。

送信先：日本宗教学会事務局 ja-religion@mub.biglobe.ne.jp

Windowsのワード・一太郎は添付ファイルで、それ以外はメールに貼り付けて、9月9日（金）

までに、送信して下さい。 受付開始：8月15日

メールの件名は「レジュメ 発表者の御名前」として下さい。 例：レジュメ 鈴木花子

Eメールをお使いにならない方は、大会当日、紙原稿と一緒にCDまたはFDを提出して下さい。

氏名を明記して下さい。CD、FDは返却しません。（USBは受け付けません）

レジュメの表紙 (すべての項目に記入して下さい。)

発表題目 題目の長さには限りませんが、10文字以内で印刷してください。 縦書き

発表者名 縦書き

欧文タイトル 邦文題目に副題がない場合、サブタイトルを付けることは不可
活字体。イタリックは下線で指示して下さい。

発表者名のローマ字表記 例：鈴木花子 → SUZUKI Hanako

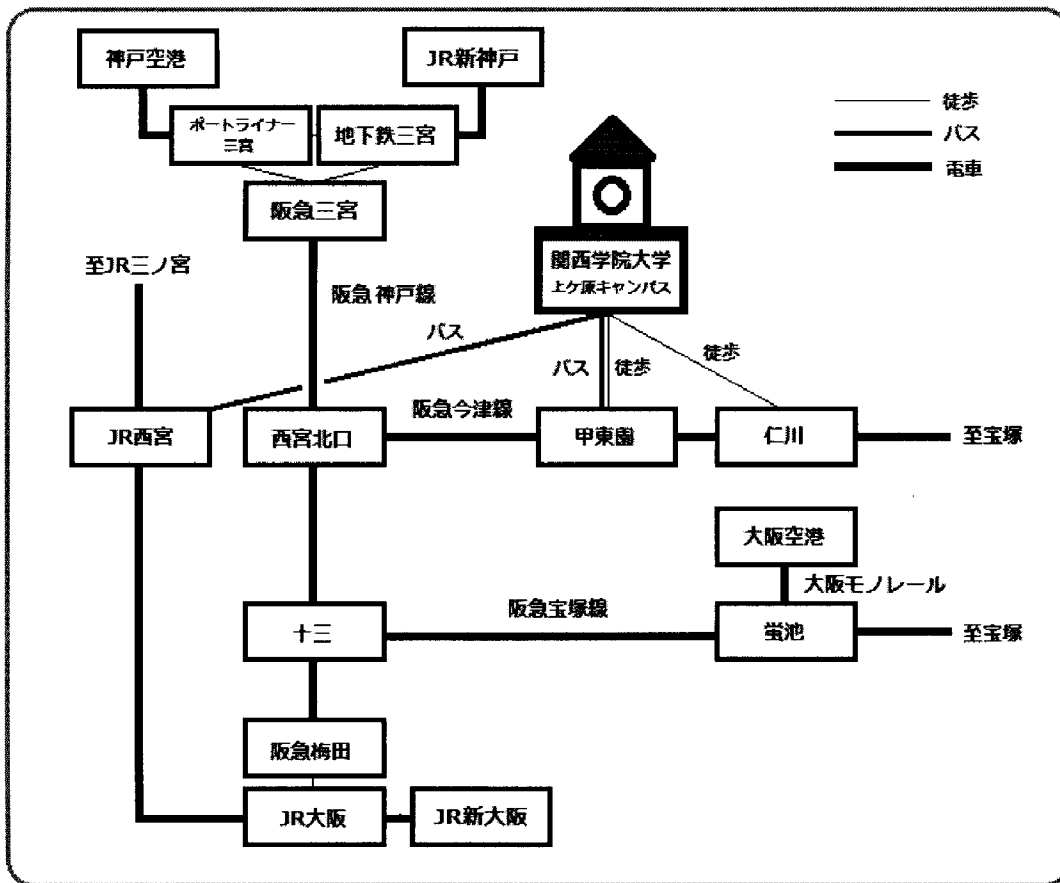
電子データの提出について 以下に○をつけて下さい。

- 1 送信済み
- 2 9月9日までに送信

※ レジュメの表紙は、大会ホームページからダウンロードできます。

※ 特殊文字は、プリントアウトしたものに、赤字を入れて下さい。

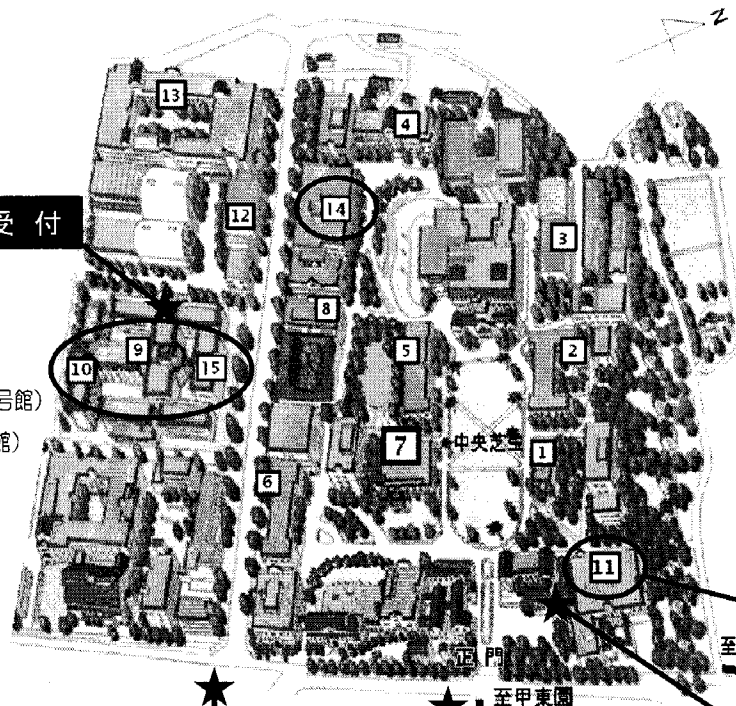
交通案内



関西学院 西宮上ヶ原キャンパス

学部等

- 1 神学部
- 2 文学部
- 3 社会学部
- 4 法学部
- 5 経済学部
- 6 商学部
- 7 中央講堂
- 8 キャリアセンター
- 9 人間福祉学部 (G号館)
- 10 国際学部 (G号館)



- 11 関西学院会館
* レストランポプラ
20:30まで営業 (90席)
* 理事会 (翼の間)
* 懇親会
(レセプションホール)
- 12 学生会館旧館 (食堂)
- 13 学生会館新館
* BIG PAPA
* 三田屋
11:00-14:30まで営業
- 14 B号館 } 次頁参照
- 15 G号館 } (人間福祉学部、国際学部)

受付

理事会

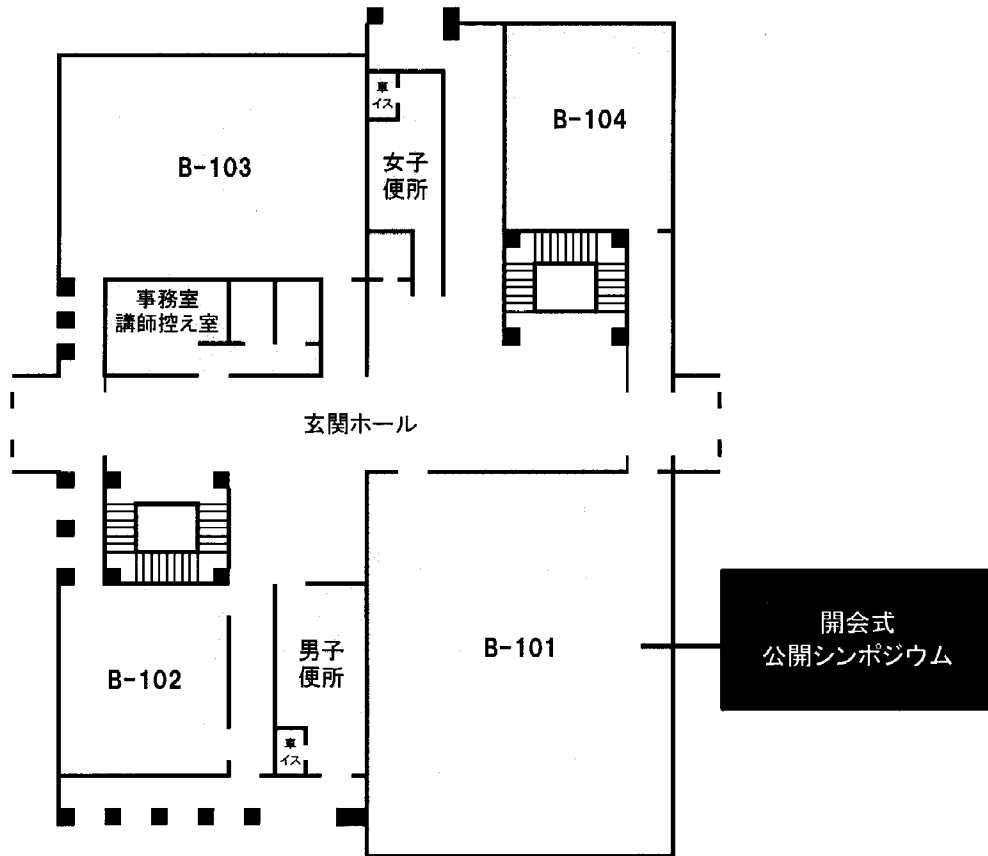
ローソン

バス停

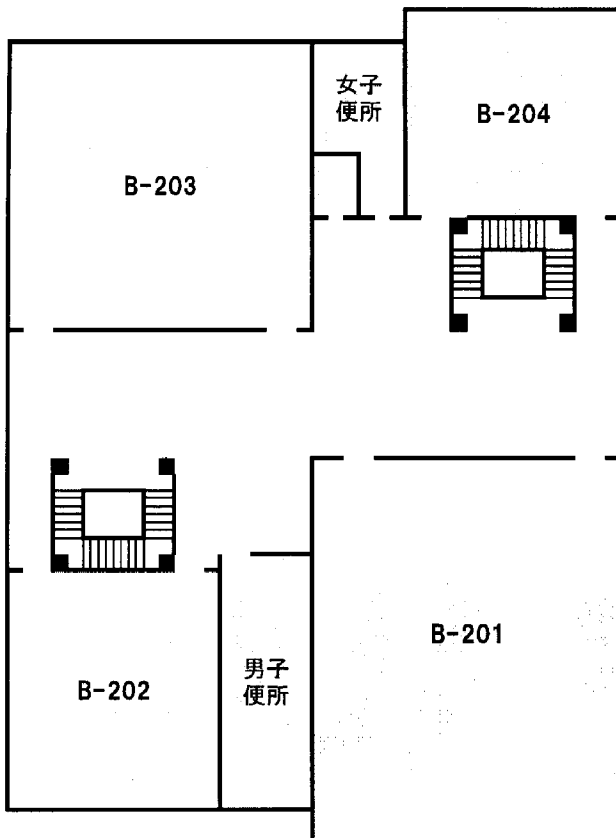
ランバス記念礼拝堂

※9/4 早朝礼拝

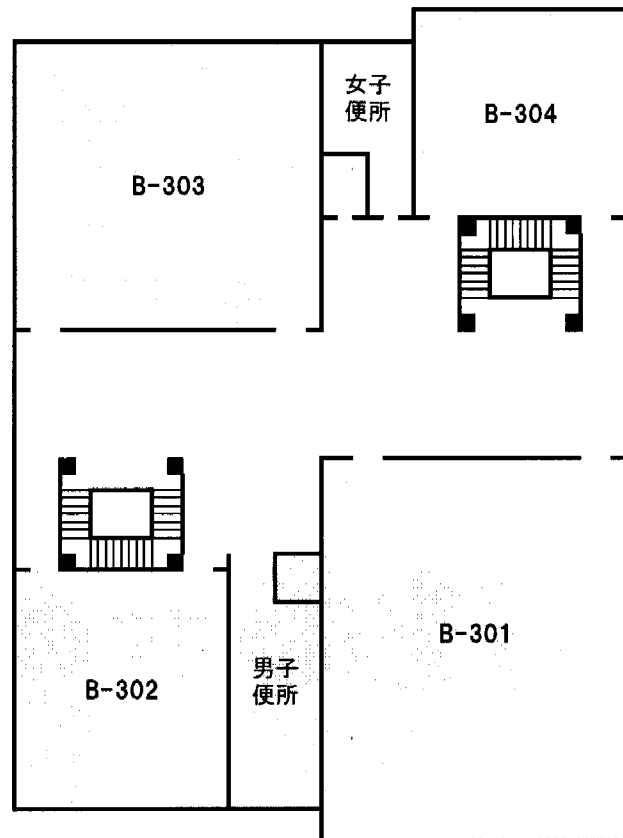
B号館 1F



2F



3F



日本宗教学会
第 70 回学術大会実行委員会事務局

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町 1-155

関西学院大学神学部補佐室内

TEL : 0798(54)6207 FAX : 0798(51)0936

E-mail : jars2011.9.2.3.4@gmail.com

HP : <http://jars2011.webdeki-blog.com/>